

## 分担研究報告書

### 油症検診における口腔カンジダの発現に関する研究

研究分担者 川崎 五郎 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授

**研究要旨** 油症検診において、口腔カンジダの検出を行った。平成 28 年度長崎県油症検診において検討可能であった 77 名を対象とした。認定者は 48 名、未認定者は 29 名であった。口腔カンジダの発現として舌を測定部位とし、カンジダディテクターを用いて検出を行った。認定未認定ではカンジダの発現率に有意差がみられなかったが、高齢者および女性に高い発現率がみられた。また、口腔乾燥感を訴えた患者や義歯装着の患者でも高い発現率がみられる傾向にあった。

#### A. 研究目的

油症患者の歯科検診において、舌痛をはじめとして、歯肉や頬粘膜などの疼痛を訴える患者をしばしば経験する。基質的变化がなく、疼痛を訴える患者は、口腔不定愁訴として診断され日常的にみられるが、原因が不明な症例がある一方で、不顕性のカンジダが原因である症例も少なからず存在すると言われている。今回、油症検診において、舌の痛みを訴える症例について口腔カンジダの検出を行い、油症との関係について研究を行った。

#### B. 研究方法

長崎県油症検診において歯科検診を行った際、ランダムに選んだ患者で、舌のカンジダ調査に同意が得られた患者を対象とした。患者の舌を滅菌した綿棒で拭い、カンジダディテクターキット(亀水化学工業株式会社)の培地に塗布を行った。常温で 72 時間放置し、培地のコロニー数の状態で判定を行った。判定は陽性(コロニー数  $10^4 <$ ) を+、陰性を- (コロニー数  $10^2 >$ )、陽性と陰性の間のコロニー数のものを偽陽性±とした。また、通常の間診の結果を用い、舌痛、口腔乾燥感、義歯の装着の有無の結果との比較検討も行った。

(倫理面への配慮)

本研究の解析結果においては、個人が特定できるようなデータは存在しない。

#### C. 研究結果

対象となった患者は、玉之浦地区 20 名、奈留地区 19 名、長崎地区 38 名の計 77 名であった。認定者、未認定者の内訳は、認定者 48 名、未認定者 29 名であった。全体の平均年齢は、67 歳で認定者 69 歳、未認定者 62 歳であった。

性別は、対象者全員で男性 28 名、女性 49 名であった。認定者は男性 18 名、女性 30 名で、未認定者は男性 10 名、女性 19 名であった。

カンジダの検出結果は、対象者全員のうち+が 24 名 (31%)、±が 16 名 (21%)、-が 37 名 (48%) であった。

認定者、未認定者別では、認定者においては+が 14 名、±が 10 名、-が 24 名であった。未認定者においては、+が 10 名、±が 6 名、-が 13 名であった。認定、未認定の間にカンジダ発現率の有意差は認められなかった。

年齢別では、67 歳未満が 38 名で、67 歳以上が 39 名であった。67 歳未満では、+が 5 名、±が 8 名、-が 25 名で、67 歳以上では、+が 19 名、±が 8 名、-が 12

名であった。高齢者ほどカンジダ検出率が高かった。

性別では、女性では+が19名、±が11名、-が19名であった。男性では、+が5名、±が5名、-が18名であった。カンジダ発生率は女性が高かった。

主訴との関係では、口腔乾燥感を訴えたものが21名みられ、そのうちカンジダの発現は、+が12名、±が0名、-が9名で、発現率は57%であった。舌痛を訴えた者は5名で、+が2名、±が1名、-が2名であった。

有床義歯を装着していたものは15名であった。義歯装着者のカンジダ発現は、+が7名、±が2例、-が6名であった。義歯装着者がカンジダ発現率は高い傾向にあった。

#### D. 考察

油症患者の口腔所見としては、口腔粘膜の色素沈着、歯周疾患、口腔乾燥症、顎関節症などが報告されている。実際の油症歯科検診において、現在でも、上記の疾患が多くみられ、また、不定愁訴と思われる患者もしばしばみられる。

これまで行ってきた臨床研究で、口腔水分計ムーカスを用いて油症検診時に患者の口腔乾燥の測定を行った。その結果では、口腔乾燥を訴える患者は女性や高齢者に多く認められた。また、口腔乾燥感を訴える患者に舌の痛みを訴える患者も多い傾向がみられた。

舌痛症はしばしばみられる疾患である。原因が不明であることも多いが、不顕性のカンジダが一定の割合でみられることも報告されている。今回の結果では、舌痛を訴える患者が少なく、カンジダと舌痛との関係は明らかではなかったが、口腔乾燥感を訴える患者では明らかにカンジダの発現率が高かった。口腔乾燥を訴える患者の中に舌痛を訴える患者は比較的多くみられるため、これらの症状を訴える患者に限

定して調査すれば、舌痛、口腔乾燥とカンジダの関係がもう少し明らかになってくる可能性がある

年齢別では高齢者に、カンジダ発生率が高かったが、原因としては免疫力の低下や、基礎疾患や内服薬による影響の可能性が考えられる。肉眼所見で明らかなカンジダが認められた患者はほとんどみられなかったが、今後、基礎疾患や内服薬との関連性について検討する必要があると思われる。

性別では、女性にカンジダ発現が多い結果が得られた。一般に、舌痛症や口腔領域の不定愁訴は女性が大半であるが、カンジダとの関連性を示している結果かもしれない。

口腔内環境としては、カンジダとの関係は補綴物が影響を与えている可能性は大きい。今回は義歯との関連性について調べたが、有床義歯を装着している患者で発現率が高い結果が得られた。これには、義歯の洗浄や残存歯の清掃性などが関係しているものと推測できるが、症例を増やして検討する必要がある。

認定者、未認定者別では、カンジダの発現に有意差はみられなかった。今回の結果では、カンジダは、油症患者にみられる歯科的疾患とは関係性が少ないものと推測できたが、今後症例数を増やし経時的変化を見ていく必要があると思われる。

#### E. 結論

長崎県腫油症検診にて口腔カンジダの検出を行った。口腔カンジダの発生は、認定、未認定の間では有意差はみられなかった。年齢別では高齢者に、性別では女性に、各々高い発現率がみられた。また、義歯の装着、口腔乾燥とカンジダとの関係が示唆された。

#### F. 研究発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況  
なし